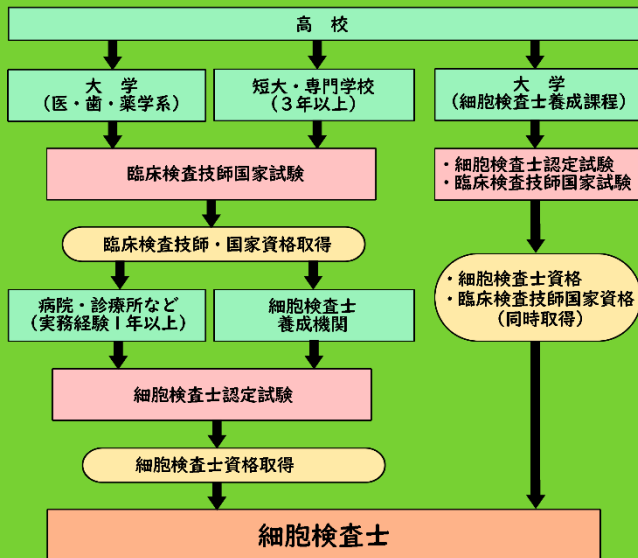


## 細胞検査士への道

細胞検査士資格を取るためには、日本臨床細胞学会および日本臨床検査医学会が認定する細胞検査士認定試験に合格する必要があります。受験資格は、「臨床検査技師または衛生検査技師免許の所持者であり、かつ1年以上の細胞検査実務を経験した者、あるいは日本臨床細胞学会認定の細胞検査士養成機関卒業見込み者または卒業生」となっています。ただし、現在、衛生検査技師は養成されていません。細胞検査士は、資格取得後も5年ごとに資格更新の審査を受けなければいけません。また、3年の実務経験を有する細胞検査士には2年に1回行われる国際細胞検査士認定試験の受験資格が与えられ、合格すれば国際細胞検査士として海外で働く場合にも専門家としての評価を得られます。



京都橋大学臨床検査学科 細胞検査士コースの実習風景



公益社団法人 日本臨床細胞学会

## 細胞検査士会

URL:<http://www.ctjsc.com/>

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台 2-11-1  
駿河台サンライズビル3F



知ってほしい、「細胞検査士」の仕事

We are  
cytotechnologists

がん診断の担い手

## 細胞検査士



*Cytotechnologists work with various technologies to aid in diagnoses.*

公益社団法人 日本臨床細胞学会

細胞検査士会



## 細胞検査士とは ●●●●●●●●●●●●●●●●

皆さんは「細胞診」という検査をご存知ですか？ 顕微鏡でがん細胞を探し出す検査が細胞診、そしてそれを担うがん検査の専門職が「細胞検査士」です。細胞検査士の使命は、細胞診断学の普及と技術の向上により国民の健康を守り続けることです。

## がん細胞を見つけ出す細胞検査士 ●●●●●●●●●●

細胞検査士は、Cytotechnologist(CT) と呼ばれ、世界中の多くの国々で、日々、顕微鏡を操作しながら、がん細胞を探しています。

人間の体を形作る細胞は、およそ37兆個。その一つ一つは顕微鏡を使わないと見えない大きさです。そんな小さな細胞が、それぞれに決められた仕事を秩序正しくこなしてくれるおかげで、私たちは健康に生活していくことができます。ところが、ときとして秩序を無視するように自由勝手に増え続け、最終的には命をおびやかす細胞ができてしまう……これが「がん細胞」なのです。

## ここが違う！ 良性と悪性

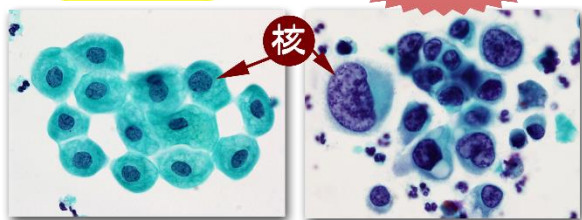
### 一悪性細胞は、「顔つき」が悪い一

悪性細胞は良性細胞に比べて

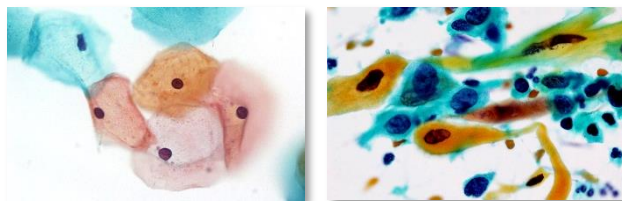
- 核が大きい
- 核の色が濃い
- 核の形がいびつ などの特徴がみられます。

### 良性細胞

### 悪性細胞



尿中にみられた膀胱の正常細胞 (左) と膀胱がんの細胞 (右)



子宮頸防から採られた正常扁平上皮細胞 (左) と扁平上皮がんの細胞 (右)

細胞には顔がある、と言うと驚かれるかもしれませんが、もちろん、細胞に目や鼻があるわけではありませんが、私たち細胞検査士は細胞の形の変化、すなわち細胞の顔つきの変化を顕微鏡でとらえ、「良い細胞 (良性細胞)」と「悪い細胞 (悪性細胞：がん細胞)」を区別したり、たくさん細胞の中からわずかな数のがん細胞でも見逃さず見つけ出したりすることができます。このような検査が「細胞診」、そして細胞診を担う専門資格を有した臨床検査技師が「細胞検査士」です。

## 細胞診は体にやさしい検査です ●●●●●●●●●●

細胞診の特徴は、体に大きな負担をかけることなく、早く精度の高い検査ができることにあります。たとえば、体から自然に排出されるもの (痰「たん」や尿など) を細胞診の材料 (検体) として用いれば、痛みを感じることなく、何度でも繰り返して検査を行うことが可能です。また、子宮がんの検査では、子宮の粘膜を軽くこすって細胞を採りますが、痛みや多量の出血をおこすことは通常ありません。さらに、乳房や甲状腺などの検査では細い針を刺して細胞を採りますが、傷跡が残ることはありません。このように、細胞診はとても体にやさしい検査なのです。そして、集団検診のように、一度にたくさんの人の検査ができることも特徴のひとつです。

## 細胞検査士の魅力 ●●●●●●●●●●●●●●●●

がんを見つけ出す検査法には、X線や超音波検査などの画像検査、がん細胞が作りだした血液中の異常物質を測定する生化学検査、がん細胞の形・色・大きさなどを顕微鏡で観察

する形態 (病理・細胞診) 検査、遺伝子を調べてがん細胞の性質を見つけ出す遺伝子検査などがあり、これらの検査ががんの早期発見やがん患者さんの治療に役立てられています。

細胞検査士には、異常な細胞を見つけ出し、その形の変化からがんの診断を行うための経験と知識が求められます。がん細胞を確実に見つけ出すこと、そしてがん細胞ではない細胞を「良性細胞」と正しく判断することも私たち細胞検査士の役目。的確な判断は、がんの恐怖から患者さんを救うことにもつながります。

体の中の細胞を見極めることによって、早期のがんを発見することができ、患者さんの健康と命を守ることができる細胞検査士。多くの医療職、研究職の中でも、顕微鏡を使って良性細胞とがん細胞を見分けることができる技術力は、細胞検査士の大きな魅力です。

## 検診受診の啓発などの社会活動 ●●●●●●●●●●

細胞検査士は患者さん、検診受診される方々と直接接する機会が少ないため、積極的に社会活動に参加しています。子宮の日を中心に全国での子宮頸がん検診受診啓発活動、がん患者大集会支援、リレーフォーライフへの参加などとおして、社会の皆様とのつながりをつくるよう努めています。

毎年、4月9日は子宮頸がんを予防する日 (子宮の日) としてNPO法人「子宮頸がんを考える市民の会」と共催で、LOVE49 全国アクションを実施しています。年に一度のこのアクション、細胞検査士をはじめ1500名を超えるボランティアの活動によって、子宮頸がんの予防を考える日に定着し、さまざまなメディアにも取材されています。



今や、日本人の2人に1人は一生のうち一度はがんにかかり、3人に1人ががんで亡くなる時代です。細胞検査士はがん検査の専門職として、皆様の健康と命を守るため、がんの早期発見、正確な診断に貢献すべく、医療の最前線で活躍しています。

